

小寺鹿次郎

号

小寺天真

こでら・しかじろう

こでら・てんしん

誠之館剣道教師

経歴

生: 明治16年(1883年)3月10日、岡山県小田郡笠岡町(現岡山県笠岡市)笠岡生まれ

没: (不明)

| | | |
|-------------------|-------|-----------------------|
| 明治44年(1910年)11月9日 | 28歳 | 大日本武徳会京都本部剣道科卒業 |
| 明治44年(1910年)12月1日 | 28歳 | 京都武徳会支部剣道教授、京都府師範学校教師 |
| 明治45年(1912年)2月10日 | 28歳 | 広島県立福山中学校(誠之館)剣道教師 |
| 大正2年(1913年)1月4日 | 29歳 | 広島県立福山中学校(誠之館)武術教師 |
| 大正6年(1917年)8月27日 | 34歳 | 大日本武徳会剣道5段 |
| 大正7年(1918年)11月3日 | 35歳 | 文部省資格認定剣道5段 |
| 昭和2年(1927年)5月10日 | 44歳 | 大日本武徳会剣道教師、剣道6段 |
| 昭和2年(1927年)7月5日 | 44歳 | 文部省資格認定剣道6段 |
| 昭和12年(1937年)3月31日 | 54歳 | 広島県立福山誠之館中学校武術教師を辞任 |
| 昭和30年(1955年)ごろ | 72歳ごろ | 笠岡市大磯の剣道場において剣道指南 |

生い立ちと学業、業績

本名は小寺鹿次郎。明治16年(1883年)3月10日、岡山県小田郡笠岡町(現笠岡市)生まれ。

明治44年(1910年)に大日本武徳会京都本部剣道科を卒業、京都府師範学校などの教師となった。1年後の明治45年(1912年)に広島県立福山中学校(誠之館)の剣道教師となり、昭和12年(1937年)まで25年間勤めた。その間、昭和2、3年には東京高等師範学校の剣道全国大会を制覇、また京都武徳殿での全国大会で4連覇などの偉業を達成させた。この時の様子は誠之館遠征歌にも

「古き都に攻め入りて、栄ある勝利あげしとき」
と歌われた。

性格は恬淡実直、稚気を含んで情に厚く、生徒に敬慕された。豪放磊落にして悠々迫らず、常に天を仰いで堂々と闊歩された。漢詩をつくるのに長けており、「天真」と署名した墨痕鮮やかな超特大の書を揮毫し、道場に掲げて剣の精神を説く姿は、まさに剣聖と呼ぶにふさわしかった。いまも同窓会歴史資料室には「発祥致福」とかかれた扁額がある。

その指導は厳しいばかりではなく、遊ぶときには生徒たちの間に溶け込み、徹底的に遊んで生徒たちの気持ちを実に良く掴んだ人だった。こうした先生に強い感化を受けた生徒は多く、小寺が戦後に経済的な困窮に陥ったときに、かつての教え子たちが組織をつくり援助した。

(出典1)(出典2) 三村敏征(昭和38年卒)

| 誠之館所蔵品 | | | | |
|--------|--------|------------------------|-------|------|
| 管理No. | 氏名 | 名称 | 制作/発行 | 日付 |
| 00297 | 小寺天真 書 | 扁額「発祥致福」 | — | — |
| 04541 | 小寺正道 編 | 『武徳殿東京高師再優勝記念 誠之館剣道教書』 | 小寺正道 | 昭和3年 |

出典1:『誠之館百三十年史(上巻)』、1191頁、福山誠之館同窓会編刊、昭和63年12月1日

出典2:『先輩後輩 誠之館高校(26)』、サンケイ新聞、昭和37年

出典3:『續甬里詩稿』、21頁、平川武三郎(平川甬里)著、平川一義刊、昭和45年5月25日

関係資料1:『懐古—誠之館時代の思い出—』、129頁、「中学校時代の思い出」、栗原弥須二、福山誠之館同窓会編刊、昭和58年5月15日

2004年10月28日更新:経歴●2005年1月21日更新:肩書修正●2005年4月8日更新:経歴・出典●2006年6月23日更新:タイトル・所蔵品●2006年8月7日更新:タイトル・所蔵品●2006年8月24日更新:本文・出典●2006年9月27日更新:所蔵品●2007年4月17日更新:本文●2007年8月10日更新:関係資料●2007年12月26日更新:経歴・本文・出典●